おひさま通信

願いを育み関係性を築く

白岡市障害者
デイサービスセンター

Aさんについて

Aさんは33歳の女性、軽度の知的障害と精神障害のある仲間です。小・中・高校と普通学級に通っていましたが、きっと障害は理解されなかったのでしょう、いじめにあっていたようです。卒後はずっと引きこもりの生活が続きます。そして、精神障害者の作業所へ通い始めますが次第に通えなくなり、白岡デイサービスに繋がりました。

想像力を膨らませて

当初、仲間たちはAさんに「何処に住んでるの？」「週何回くるの？」などたくさん話し掛けてくれました。でもAさんは答えないし話さないし目も合わせない…それは職員にも同じでした。ある日の昼食、Aさんはいっこうに箸をつけません。職員が「どうしたの？」「苦手な食べ物でもある？」と聞いても何も答えず…結局はそのまま席を立ってしまいました。それからも、みんなから離れた場所に座ってずっと手をいじっているだけの日々が続きます。職員は「もう少し人と関われるといいな」と思いつつもどうしてよいのか分からず、仲間たちからも「Aさんって挨拶も出来ないの？」といった声が出始めます。

職員は改めてAさんを理解し直しました。特に生活歴の振り返りを大切にして想像力を膨らませました。「Aさんは今まで障害が理解されなかったんじゃないか？違いが認められずに優劣をつけられ人間関係でたくさん傷ついてきたんじゃないか？だとしたら人が怖いんじゃないか？だから話せないんじゃないか？」などなど。そして、「とにかく白岡デイの人間関係で傷を癒そう」「今の姿のままを受け入れよう」という方針を持ちます。

肯定的に受け入れる

それまで職員はAさんに何かしてもらいたいという思いから、「作業できる？」「何だったら出来そう？」「今日のご飯は食べられそう？」といった質問ばかりをしていました。それは答えたくても答えられないAさんには辛かったのだと思います。それが「今日も来てくれてありがとう」「作業しなくていいからこっちに来て一緒に座ろう」といった声かけに変わります。作業しない・返事しない事を肯定的に受け入れていきます。また、ある日は通所するなりロッカーの前で立ち尽くしています。どうやら自分なりに荷物の置き場を決めていたようですが、そこに他の仲間の荷物があって困惑したようです。それに気付いた職員は、「それじゃ、この場所はAさん専用にしよう」と言ってロッカーにAさんの好きな花のシールを貼ります。

職員の理解の仕方が変わることで、Aさんへの声掛けや向き合い方は大きく変わりました。時に「わがままじゃない？」「甘やかしているんじゃない？」といった意見も出ましたが、それはそれとしてその後も取り組みを続けていきました。

仲間たちを応援していける施設に

1年くらいが経ったある日、職員はみんなから離れた場所に座っているAさんが、みんなをよく見ている事に気付きます。「離れていても気持ちは参加しているかも知れない」「人が怖いという思いを持ちながらも『人と関わりたい』という新たな思いも持ち始めているのかも知れない」と思います。そして、「Aさんの不安をできるだけ支えながら前向きな心を引き出していこう」と考えます。

職員は、この間の様子から手をいじっていない時のAさんは安心している事が分かっていました。そのタイミングで「作業やってみる？」と聞くと、Aさんは頷いてくれました。「単に作業したい」ではなく「みんなと一緒に自分もしたい」、そう思ってくれたのだと思います。

現在、Aさんは「午前中、作業する」と伝えてくれたりします。また、以前は自分から席を移動したり好きなパソコン動画を見たりする事は無かったのですが、今では自分から動いてパソコンを見ます。背景には肯定的に受け入れた「安心感」、そこから思いや願いを育み葛藤などを共有した「関係性」があるのではないかと思っています。

みんなと一緒に自分もしたい！

白岡デイでは、Aさんへの取り組みを仲間みんなの取り組みの土台としています。

先日も幻聴が聞こえるBさんが大声を上げます。職員は「大丈夫だよ、声だしていいよ」と言います。それに対して音に敏感なCさんが「もうBさんが通所する日は休む」と言います。職員は迷いながらも「分かった、でも職員はCさんが安心して来られるように一生懸命かんがえる」と言います。でも、Cさんが伝えてきた休む日はBさんが通所する全ての曜日ではありませんでした。

Cさんも以前は人への恐怖心がたくさんありましたが、安心感を育んだ仲間です。だからこそ「うるさいから休む」だけではなく、「通所もしたいから週に1日くらいはBさんがいても頑張ろう」と思ってくれたのだと思います。職員はその1日がとても嬉しくて「よく来てくれたね」と喜びます。

職員は「肯定的に受け入れる事は決してわがまま・甘やかすではなく安心感などに繋がる」「その土台があってはじめてもっとよく生きたいといった思いや願いなどに繋がる」と思っています。

現在、白岡デイには仲間一人ひとりに安心感や関係性が育めていると思っています。また、それらが実現できるからこそ集団と言えるのではないかと思っています。そんな集団が次に来るどんな事情や要求を持つ仲間であっても、受け入れて支えてくれています。

障害がきちんと理解されずにずっと否定されてきた人、傷ついてきた人がたくさんいます。そんな人たちもちゃんと大切にされて思いや願いや葛藤に向き合っていける、職員も仲間への願いをちゃんと持って応援していける、そんなことが実現できる施設になれるように、これからも仲間たちと一緒に過ごしていきたいと思います。

白岡市障害者デイサービスセンター
施設長　松浦　禎洋

響き

白岡市障害者デイサービスセンター

先日、機械浴槽が壊れてしまいました。仲間たちは「大丈夫だよ」「シャワーだけでいいよ」とのこと。以前は「お風呂入りに来てるんだから困るよ」などと言っていた仲間たち、日々の関係性が職員のことを思って事情を理解してくれたのだと思います。職員は「ありがとう」ってうんと喜びました。

サンライズ

サンライズの余暇で、公園で運動を行っています。野球やドッチボール、皆で輪になりバレーボールで10回トスを繋ぐレクを楽しみました。その中でも一番白熱したのがバレーボールで、皆が一つになり楽しみました。充実した顔や笑顔がたくさん見られ、とても良い時間です。

オレンヂホーム

ホーム内で摘んだドクダミ茶や紫蘇ジュースなどでこの時期だよな～と感じましたが、梅雨の天候と長袖が必要な夜の気温から一変、異例の速さの梅雨明けに夕方のニュースを見ながら仲間と一緒にびっくり。慌てて長袖を押し入れにしまい、夏仕様に切り替えを仲間と一緒に行っていました。

大宮太陽の家

仲間と一緒に移転予定地の土地見学に行ってきました。仲間からは「ひろいね」「まだなにもな～い」などこれからどうなっていくのかワクワク感が伝わってきました。「周りにはなにがあるんだろう？」と早速周辺探索を行っています。

シャイン

子ども達は「かえるのうた」が大好きです。両手を広げ、大小のカエルになりきって歌っています。

またカエルの製作をし、部屋には可愛いカエルが飾られています。

プールが始まったら今年もカエルが遊びに来てくれたらいいなぁ、と思っています。

はれ

日中活動スペースが狭い対策として、屋外で仲間たちが少しでも過ごしやすい環境を整えていきたいため、仲間玄関横ウッドデッキスペースに屋外用テーブルやベンチを置きました。また、暑さ対策のためビーチパラソルやサンシェードも設置して、仲間たちも避暑を楽しんでいるようです。